



「日本はいつも外国を当てにしているが、自分で作らなければならないと思った。」

「日本の食料自給率が低いのにびっくりした。」

「食べものが食べられない人がいるのに、日本は捨てている。」

食べ物はどこから—フードマイレージを学ぶ

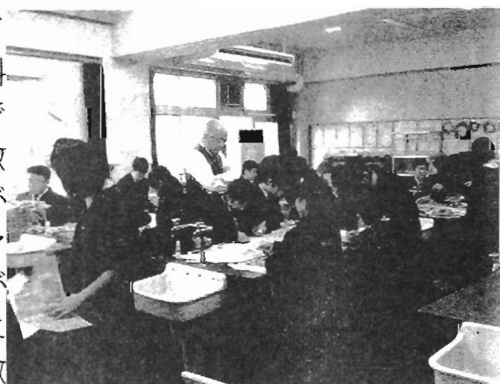
—高島第三中学校 1年—

上智大学4年 近藤千扇

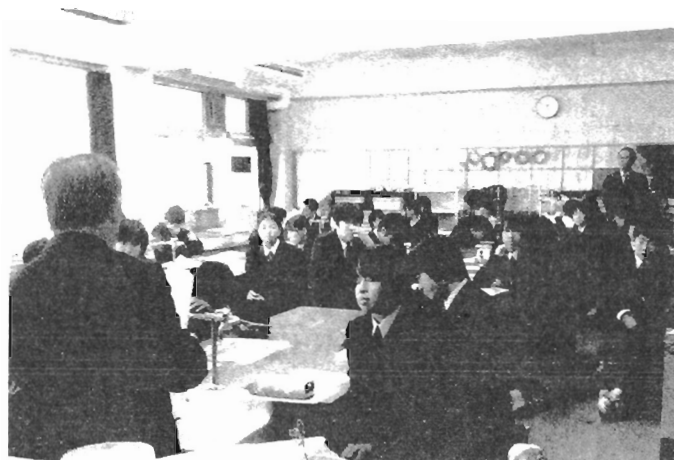
12月17日、高島平第3中学校にてSOEとエコポリスセンター主催のフードマイレージに関する出前授業が行われました。私はボランティアとしてその授業に参加させていただきましたが、授業に向かう子どもたちの姿勢を見ていて、教える側としても学ぶことも多かったです。

まずは子どもたちが持ち寄ったスーパーのチラシから、野菜や肉、魚といった生鮮食品を切り抜き、その原産地を日本地図あるいは世界地図上で見つけ、そこにチラシを貼り付けて、東京と線で結ぶという作業をしました。特に子どもたちに印象づけたのが、たこの主な原産地である、モーリタニアです。日々の食卓に並ぶ食料品が聞いたこともない遠い国からきていること、そして日本がそれだけ食料を外国からの輸入に頼っているという事実に子どもたちは驚いていたようです。

その次に行われたのが、グループごとにフードマイレージを競うゲームです。手巻き寿司の材料の調達先を3つの原産地から選び、調達するまでにかかった距離をエネルギーに置き換えて、点数換算していくゲームです。大抵のゲームは点数が高いほうが優秀とみなされますが、このフードマイレージゲームでは、点数がより低いグループがエネルギー負荷の一番少ない、優秀なグループになります。このルールを子どもたちにはあえて教



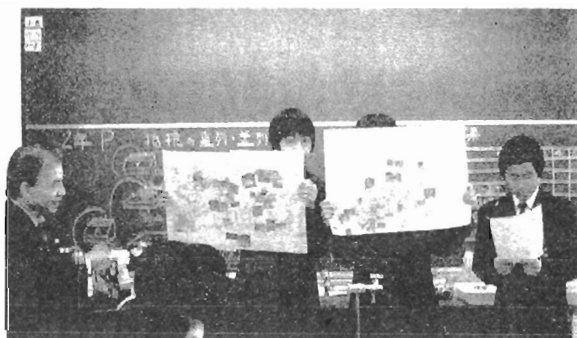
えずにやってもらったところ、点数が高いほうが良いと思っている子が多くいたようで、グループごとの点数も高いところがほとんどでした。



ルールの種明かしをした後に、もう一度挑戦してもらったところ、大半のグループでは点数が大きく下がり、グループによっては半減したところもありました。食料品はできるだけ近場から買ったほうが環境にやさしいということを子どもたちはよく理解していたようです。

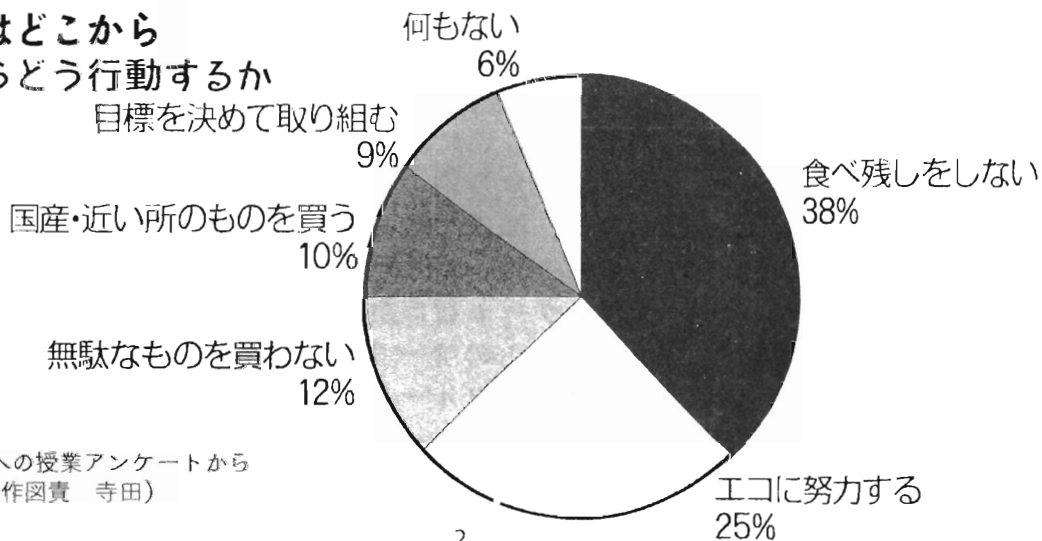
なか意識しづらい日本の自給率問題や飽食国家であるがゆえに抱える課題を、子どもたちはチラシの切り抜き作業やマイレージゲームを通して実感できたのではないかと思います。

また、私自身の反省として、グループ作業ではグループで協力しているところがあれば、個人プレーが主流となっているところもありと様々であったことで、作業進度を合わせるために、私はどう指導して良いかわからず苦戦したことも多々ありました。それでも、子どもたちと一緒に考え、今までの食生活を見直すきっかけを得られたことはひとつの大きな収穫でした。



環境にしても教育にしても知識が浅く未熟者ではありますが、これからもこのような環境教育の現場に足を運び、ともに学んでいきたいと思えます。最後に、この授業への参加を勧めてくださったSOE理事の寺田さんには心より感謝しています。本当にありがとうございました。

食べ物はどこから これからどう行動するか



当日の生徒への授業アンケートから
(データ分析作図責 寺田)

「人間は木で助けられているから、今度は人間から木に何かしてあげたいです。」

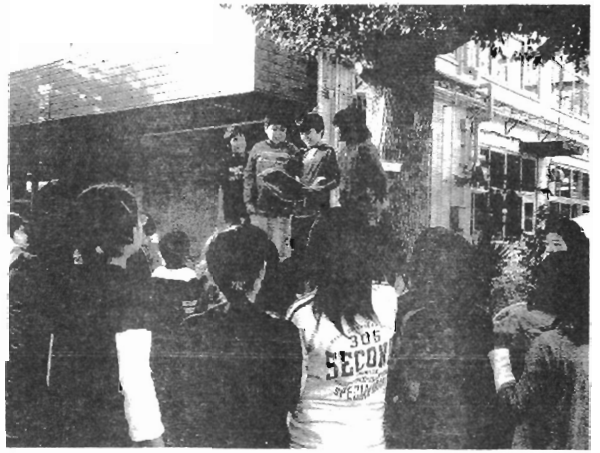
「よく見ると、気づかない木がありました。4年間学校に来ているのに、気付きませんでした。」

「木には、人を助ける力があるんだと思いました。」

「木と仲良くなれた気がしました。」

「ソロという木を初めて知りました。」

「グループで木を決めて最初は大きい木がいいかなと思ったけど、トチノキにした。葉が手みたいになっているのが今日分かった。」



「学校の木を決めよう」授業風景
(昨年11月・志村第4小学校)

環境学習「学校の木を決めよう」

—志村第四小学校4年生— 志村第四小学校講師 北野翔平

2009年11月30日、板橋区立志村第四小学校にて出張授業を行いました。学年は4年生、ネイチャーゲームを用いた「学校の木を決めよう」の授業です。

体育館で学校にある木の紹介を受けた子どもたちは、グループに分かれてネイチャーゲームのフィールドビンゴに挑戦。ビンゴには手のひらより大きな葉っぱなど、木に関する項目が16個有り、子どもたちは目で見たり手で触ったり、五感を使ってビンゴに印を付けていきます。志村第四小学校の学校の森はビンゴを埋めようとする子どもたちで大賑わいとなりました。

このビンゴを埋めていくことが、実は木の違いや特徴を知るための大きな手がかりになります。どこに、どんな木が、どんな姿であるのか。子どもたちはビンゴを通じて、少しずつ気がついていきます。

そんな子どもたちが次にするのは、グループごとにお気に入りの木を決めること。各グループが決めた木の良さをクラスのお友達に発表します。

「この木の葉っぱが手のひらみたいに見えました」

「この木の幹を触るとふかふかしました」

色々な発見をした子どもたちが、それぞれの視点でお気に入りの木を決め、みんなの前で発表していきます。発表を聞いている子どもたちもその発見をよく聞き、共感することができました。

最後に学年全体で集まってのふりかえり。

学年の半分近い子どもたちが自分自身の発見やお友達の発表を聞いて思ったことなど、それぞれ独創的な感想を発表してくれました。

子どもたちが学校で普段から目にしている様々な種類の数多くの木々。今回の授業はその木々について改めて考え、新しい発見を出来る貴重な機会となったのではないのでしょうか。

● S.O.E. 活動報告 (2009年12月)

日	曜	内 容
2	水	12月号ニュース原稿書き
3	木	活動計画打合せ
6	日	12月号ニュース発行作業
7	月	環境教育プログラム案提案検討 (とうふづくり・ピオトープを使ったプログラム等) 8日以降も
10	木	板橋区環境教育プログラム部会出席予定
13	日	午前SOEワークショップ・午後エコ主催「まちの環境発表会」参加
17	木	高島第三中学校 1年2クラス 67名 SOE授業「食べ物はどこから」フードマイレージを学ぶ (前半)
20	日	授業計画打合せ予定
26	土	全国大学生エコ活動コンクール (~27日) SOE反省会
27	日	中台中学校科学部 収穫祭参加 (赤飯づくり)

● S.O.E. 活動予定 (2010年1月)

5	火	関係学校へあいさつ
4	土	新年年賀状返信 挨拶 (~9日)
12	火	1月号ニュース原稿作成始める
14	木	ワークショップ会場借入・3学期授業連絡
15	金	区民農園申し込み (江戸東京野菜の栽培にチャレンジ)
16	土	ワークショップ
17	日	1月ワークショップ・1月号ニュース発行作業
21	木	板橋区環境教育第5回プログラム部会出席
25	月	環境省へ 平成22年度 地球環境基金助成金交付要望書申請
28	木	板橋区立高島第三中学校 1年2クラス授業 「食べ物はどこから」フードマイレージを学ぶ (後半)

「NHK FM 放送に SOE 学生スタッフが出演します」

1月19日(火) 23時から「元春レイデオショー」の中で放送されます。22分ごろの環境コーナーです。

内容は、若者による環境ボランティアの取り組みを紹介するコーナーです。SOE学生スタッフである日本女子大学2年生の笹野智加さんが、インタビューに答えながら、小中学校、大学への出前授業「食べ物はどこから」の話をします。

再放送は、1月26日(火) 午前10時~12時の間、10時22分ごろの予定です。

みなさま、どうぞ、お聞きになってくださいね。

発行

特定非営利活動法人 センスオブアース・市民による自然共生パンゲア

東京事務所 東京都板橋区前野町4-8-6 (〒174-0063) phone: 03-3960-6052 fax: 03-3960-6053
e-mail: info@npo-soe.jp url: www.npo-soe.jp